An underwater scene with several divers in various colored gear (orange, green, blue) exploring a rocky seabed. One diver in the center is holding a tablet computer. The background is a deep blue ocean with bubbles and light filtering through.

令和6年度地域生涯学習活動実践交流セミナー 事例発表

知床学と社会教育の役割

2025.2.27

羅臼町について

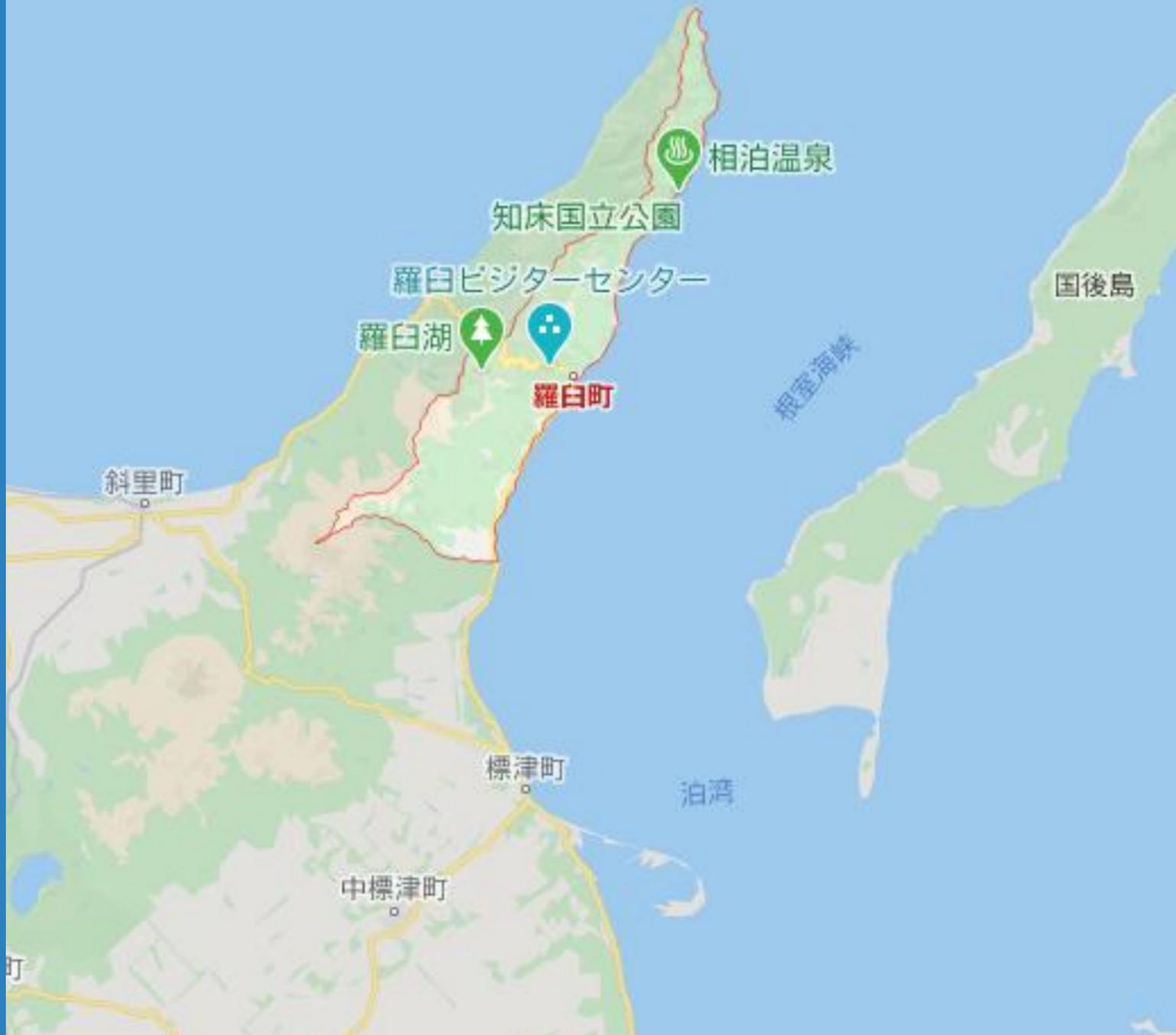
知床半島の南東半分に位置する町で、今年国立公園60周年世界自然遺産登録20周年を迎える。

面積：397.9km²

人口：約4,300人

産業：漁業

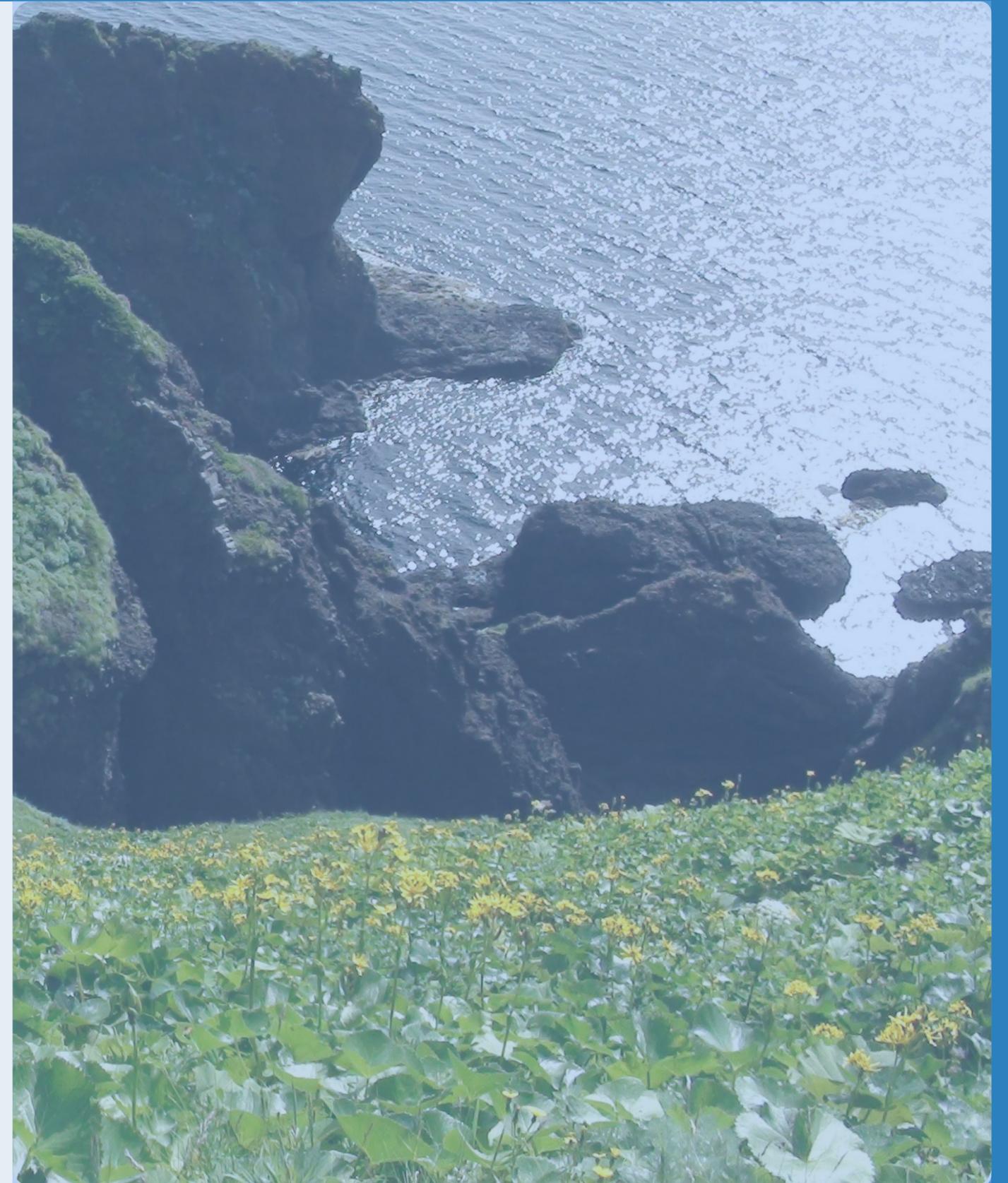
近年は観光船を中心とした観光業も賑わっている。



『知床学』とは

世界自然遺産である知床の自然（生物の多様性、生態系の相互関係、野生生物との共存）や人々の暮らし（産業、歴史、文化）を通して、ふるさとを愛する気持ちと主体的に様々な課題解決に向けて行動する力を育む学習です。

2012年に町内のすべての学校、幼稚園がユネスコスクールに加盟したことを契機に、中高一貫教育から幼小中高一貫教育の柱へと発展してきました。



知床学とESDの変遷

中高一貫の柱 (環境教育)

- ・ 社会教育が取り組んでいたふるさと学習が背景
- ・ 世界自然遺産登録もあり、知床の自然環境への認識が高まっていた

ESDとの出会い

- ・ 当時、環境教育はESDへとシフトされつつある状況
- ・ 様々な機関との出会いや関わりでESDへの理解が深化

ESDへの再編

- ・ 中高一貫教育から幼小中高一貫教育へと拡大
- ・ 地域の産業や文化、学習素材を含めたふるさと教育を通して改題解決に向かう人材育成

羅臼町のESD

海洋教育・水産教室



キャリア教育
ボランティア活動



クマ学習・生態系学習

知床学



他地域交流・教員研修



郷土の歴史

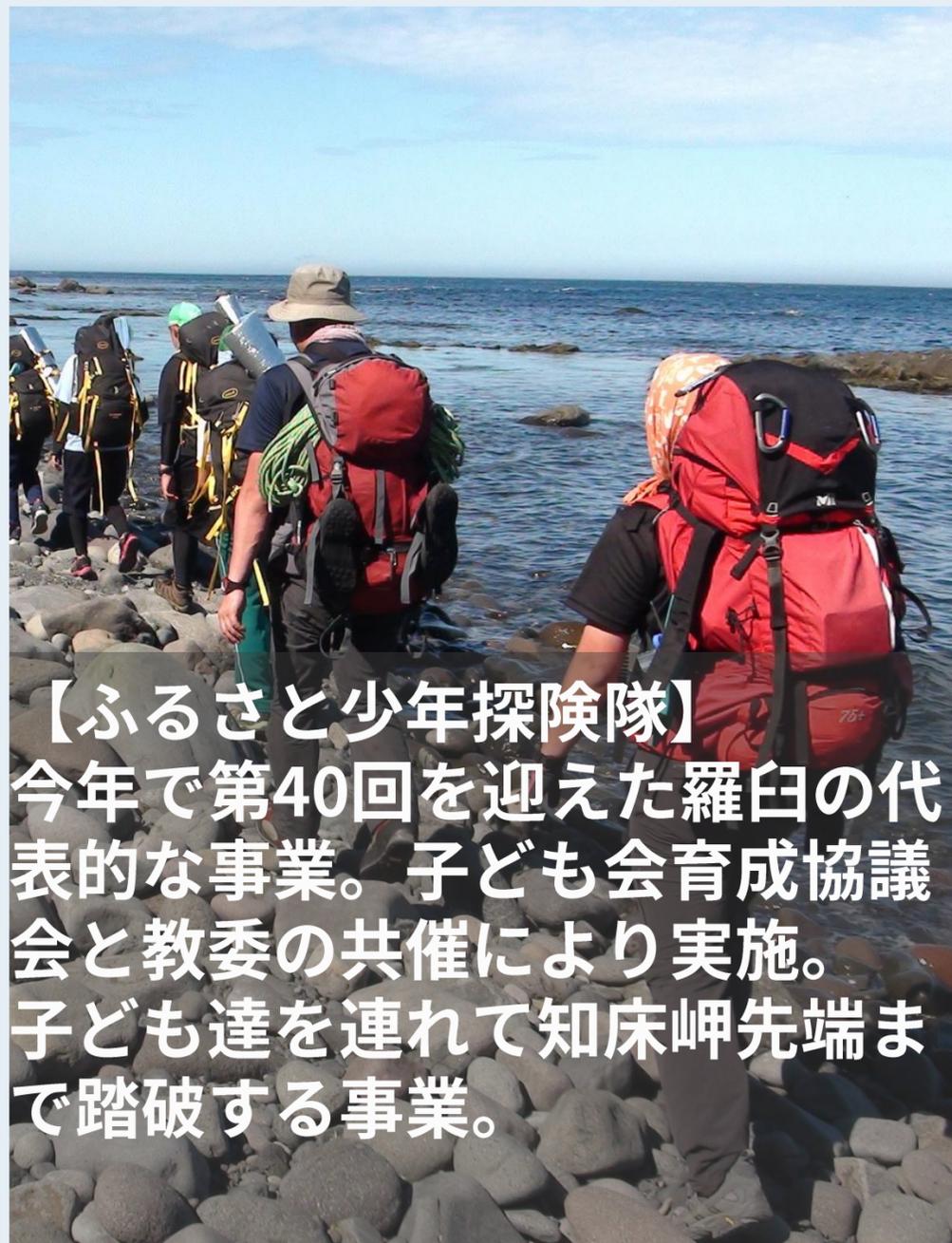
知床学と社会教育

社会教育中期計画の重点である「ふるさと学習（教育）の推進」を基にふるさと羅臼を体験的に学ぶ事業を行ってきた。



知床学が生まれる

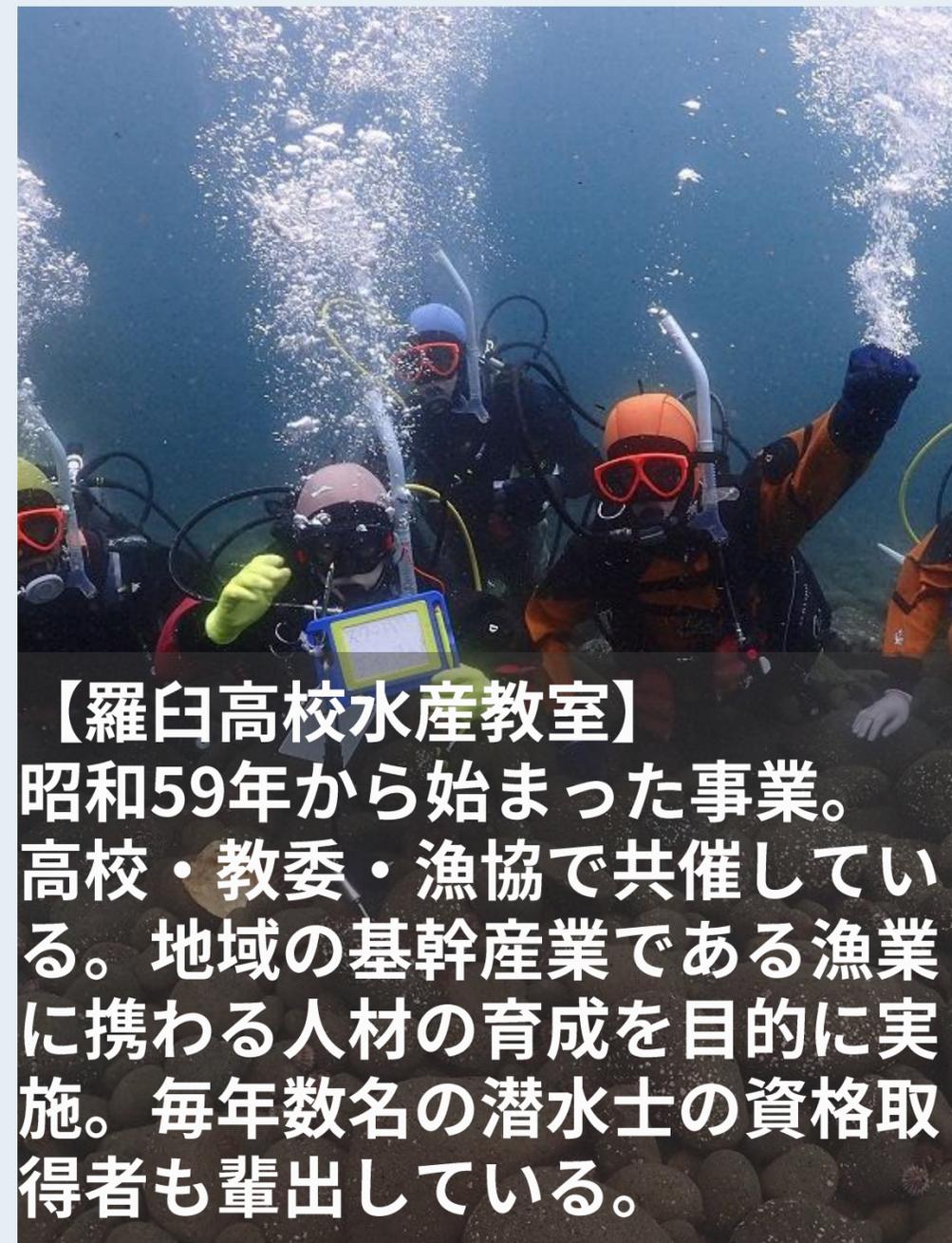
現在も続くふるさとを学ぶ代表的事業



【ふるさと少年探険隊】
今年で第40回を迎えた羅臼の代表的な事業。子ども会育成協議会と教委の共催により実施。子ども達を連れて知床岬先端まで踏破する事業。



【知床kids】
教委主催で環境省や知床財団と連携して実施している事業。年間通して8つのプログラムを実施し、羅臼の自然や文化、歴史を楽しみながら体験学習を行う。



【羅臼高校水産教室】
昭和59年から始まった事業。高校・教委・漁協で共催している。地域の基幹産業である漁業に携わる人材の育成を目的に実施。毎年数名の潜水士の資格取得者も輩出している。

水産教室について

高校生を対象に、基幹産業である漁業を中心とした地元の産業に関する知識や技術を学ぶ機会とし、漁業の現状について理解を深め、ふるさとへの愛着を深めることを目標に実施している。当初は漁業最盛期ということもあり、次代の漁業者を養成する内容が主であったが、近年は地元のお土産産業や地域ブランドのことなどについてのプログラムも多く行っている。



水産教室について

中でも「ダイビング実習」は特色のあるプログラムとなっており、希望すると潜水士の国会資格も取得可能であり、毎年数名の資格取得者が誕生している。こういった特徴的なプログラムは羅臼高校の大きな魅力の一つであり、それを全国に発信することで高校存続にも繋がっていく。



ふるさと学習の推進に向けて

【羅臼町の教育の基本方針】

ふるさとへの誇りと愛着を持ち、これからの社会に貢献し、共に支えあう人を育む



現在も第9次社会教育中期計画（R6~R9）の重点として「ふるさと学習」の推進を掲げている。

羅臼町 第9次社会教育中期計画

2024年度～2027年度
(令和6年度～令和9年度)



令和6年4月

羅臼町教育委員会

ふるさと学習の推進に向けて

SDGsを切り口として、ふるさと学習（教育）と知床学を推進することが、将来の羅臼の担い手育成や、人と人との関わり合い、心豊かに生きる地域コミュニティの形成につながっていく。



羅臼の社会教育の役割



ご清聴ありがとうございました
